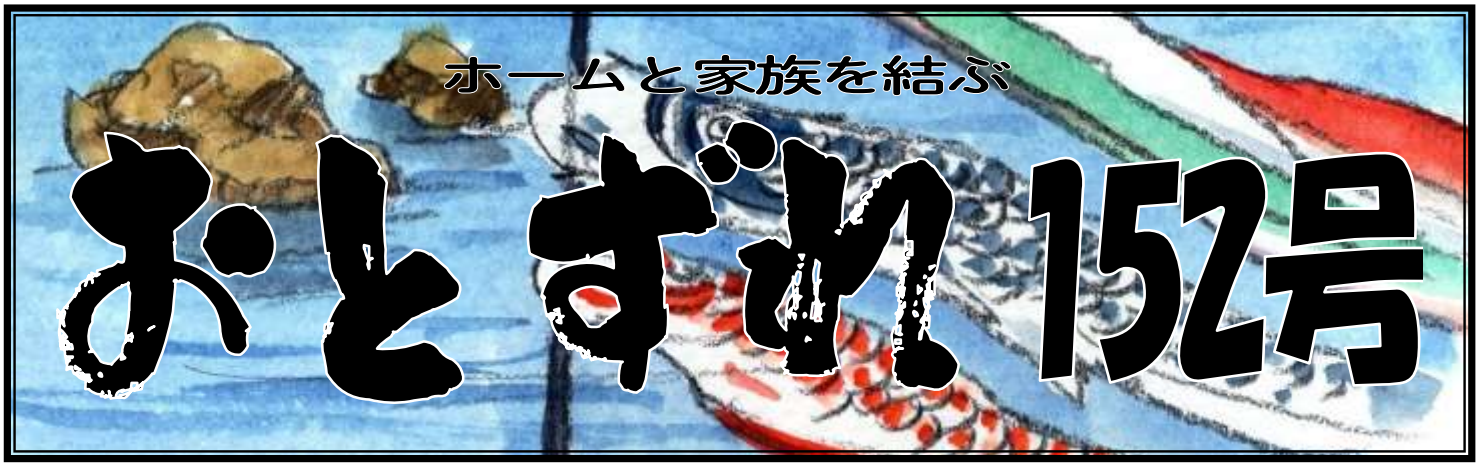


社会福祉法人 任運社　特別養護老人ホーム 任運荘
〒879-6601　大分県豊後大野市緒方町馬場 796 番地 1
事務室：0974(42)2338　寮母室：0974(42)3322　ＦＡＸ：0974(42)4187
任運社総合相談支援センター　0974(42)4211
任運荘ホームヘルパーステーション　0974(42)3351
E-mail：info@ninun.or.jp　http：//ninun.or.jp

※ 任運社内では介護職を『寮母』と呼びます

編集・発行
任運荘広報委員会

平成30年度 任運社 入社式

平成30年4月2日(月)に任運社入社式が行われました。新人職員として紹介されたのは次の職員です。

【任運荘介護職員　坪田怜菜】
【騰々舎看護職　後藤朋美】

任運社理事長廣本賢郎より入社式に際し、「ようこそ任運社へ、心から歓迎します。この季節になると『再生』という言葉がよぎります。自然の摂理、人間だけでなく草木が萌えいずる再生の季節を今年は特に感じています。丁度一週間前に任運社の創設者のひとりである吉田哲郎元理事長がお亡くなりになりました。(この後全員で黙とうが行われました)この43年の歴史ある任運社の本来の目標である『利用者本位』。進むべき道はここにいる利用者が、あなた方の間違いの無い道を示してくれるでしょう。あなた方の目、耳は利用者に向けてください。そこに吉田理事をはじめ創設に尽力下さった方々の想いがあり、目指すものがあります。皆さんの努力する姿が皆の支えにもなります。頑張って下さい。」と激励の挨拶をしました。

続いて騰々舎利用者自治会長甲斐修氏が、「利用者もますます高齢化や重度化してお世話が大変になってきていますが宜しくお願いします」と歓迎の挨拶をされました。次に任運荘　渡部長義氏から、利用者を代表して「これから色々経験すると思いますが頑張って下さい」と挨拶がありました。

廣本理事長より歓迎の挨拶

任運荘　渡部長義さん

新人職員代表挨拶は、坪田怜菜さんより「私は幼少の頃より、不自由な生活を強いられている祖母の力になりたい、自分が祖母を助けたいという気持ちが強かった事と人の役に立ちたいという理由で福祉の道を目指しました。先輩にご指導ご鞭撻いただきながら早く利用者に私の顔と名前を憶えていただけるよう頑張ります」と決意を述べて入社式は終了しました。

(担当　森　園美)

(右)騰々舎　後藤朋美さん
(左)任運荘　坪田怜菜さん

お花見ドライブに行きました

3月27日(火)午前 竹田市 扇森稲荷神社

神楽見物し「刀舞をするんじゃなぁ」と目を輝かせて話す渡部長義さん

周りの桜を見て「一杯やなぁ」と笑顔の後藤ユキエさん

目を大きく開けて神楽見物をされた河原ヨシ子さん

桜が舞うのを見て「雪のようやなぁ、良い時に来た」と笑顔の衞藤文子さん

3月27日(火)午後 原尻 チューリップ見物

「今はいろんな色のチューリップがあってきれいやぁ」と笑顔の後藤千代子さん

桜ゼリーを「おいしい」とあっという間に食べられた佐藤亀代さん

桜やチューリップを見て「きれいや」と喜ばれ、花が大好きな後藤イサヲさん

「滝に行くのは久しぶりじゃあ！」と嬉しそうに話された河原雪夫さん

4月3日(火)午前 原尻 チューリップ見物

「これが食べたくてたまらなかった」とソフトクリームを食べる村上昌子さん

チューリップと私たち、どっちがきれい！？
（右）村上昌子さん
（中）小平菜穂子寮母
（左）柴田フサ子さん

桜とチューリップの両方がきれいに咲いていました。

4月3日(火)午後 原尻 チューリップ見物

「原尻に来たけん、娘のとこまでつれち行っちくれん」と言われた嶺八千代さん（右）
原尻の滝に着くと『チューリップ』を歌いだし上機嫌だった髙山つよしさん（左）来年も連れて来てなと約束をする。

「今度は娘の弘子さんと一緒に見に来ましょうね」と寮母が声かけすると、顔をくしゃくしゃにし、涙を流しながら「そうじゃなぁ」と返事をされた三谷高明さん。

「冷たいけど美味しい」とソフトクリームを１番に完食された深田アイ子さん。売店では【アイコ】という甘いトマトを試食されました。

追悼

任運社元理事長の吉田哲郎氏が3月27日75歳で永眠いたしました。

吉田哲郎氏は1974年社会福祉法人任運社の設立に、任運社創設者であり父である故吉田嗣義会長や故木下郁氏、故羽田野次郎氏、故波多野正憲氏、故吉良文一氏、故橋本達雄氏と共に任運社の礎を築きました。

1978年身体障害者療護施設「騰々舎」を設立し初代施設長として2010年までの32年間騰々舎を牽引しました。

開設当時、行き場のない心身障がい者を受け入れることは違法と指摘を受けながらも、騰々舎理念である「最重度最優先」を貫き、県内外の多くの身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度障がい者を受け入れてきました。その理念は騰々舎存在理由両輪の一翼として今も引き継がれております。そしてもう片輪は騰々舎自治会の存在です。

騰々舎自治会は開所から2年後、今、思えば当然と思える要望をきっかけに利用者本位を具現化するため利用者自ら立ち上げました。「命は管理されるものではない」「生活に係わる予算は自分たちで決める」「施設運営に自治会の意見を」等、利用者本位を実現するためです。

故吉田施設長は利用者の安全を守る施設管理者としての立場と、「危険を冒す権利」を含めた自治活動を保障する立場の相克を乗り越えて、施設運営にあたってきました。また職員もそれを良く理解するとの前提の下で。

任運社理事長として1993年から2012年、病で倒れるまで努め、特別養護老人ホーム「任運荘」、障がい者支援施設「騰々舎」、デイサービスセンター「なごみ塾」、任運社「総合相談支援センター」の4事業所を統括し、各事業の運営は法人基本理念に外れない限りその主体性に任されました。対象者の異なる施設間で少々の違いがあっても当たり前、特徴と捉えていました。「恕」の任運荘、「自治」の騰々舎、「安心、語らい」のなごみ塾、「家族のごとく」の総合相談支援センターとそれぞれ、良き特徴を持つようになりました。

任運社黎明期を支えた理事の方々がすべて鬼籍に入られ、時代の移ろいを実感しております。しかし任運社基本理念は普遍です。吉田哲郎元理事長の意志を受け継ぎ、任運社らしさをより高めることを誓って追悼の言葉とします。

2018年4月1日

社会福祉法人任運社

理事長　廣本賢郎

～ 任 運 社 地 域 福 祉 推 進 室 便 り ～

前回、任運社が進めている地域福祉充実のための新たな拠点施設建設にふれましたが、今回その経緯と内容についてご紹介します。

1)社会福祉法人任運社が展開する地域の相談拠点施設の必要性とその意義

わが国の平均寿命は 2060 年には男性 84.19 年、女性 90.93 年(死亡中位仮定)に達すると推計されています。また、長寿化と同様、高齢化の水準として一般的な指標である総人口に占める 65 歳以上人口の割合をみると、2013 年の 25.1%から 2060 年には 39.9%に達すると推計されています。豊後大野市においても本年 2 月の高齢化率は 41.8%となっており、日本の平均の 50 年先の状態です。

この人類未踏の超高齢化社会を迎えるにあたり、故吉田嗣義会長はその著作の中で次のように述べています。「高齢化社会における根本問題は『弱りながら長生きする』という実態です。かつては弱ったまま長生きすることはほとんどなく、社会問題とはなりませんでした。弱って長生き、したがって弱って苦しんで長生きするのが現代の著しい特徴です。そうした高齢者の境涯に視点を集中し、晩年においてこそ『よき終り』が保障されるために、『われら何をすべきか』」(「終わりよければ」1990 年)。

国は高齢者が、介護が必要になっても、住み慣れた地域や住まいで尊厳ある自立した生活を送ることができるよう、質の高い保健医療・福祉サービスの確保、将来にわたって安定した介護保険制度の確立などに取り組んでいるといいます。しかし、年を追うごとに社会保障の充実のための財源や地域を取り巻く環境によってより多くの課題が生じてくるでしょう。そんな中では標準的な施策の展開では間に合わないのが実情です。認知症への対応もその一つです。

わが国の認知症高齢者の数は、2012 年で 462 万人と推計されており、2025 年には約 700 万人、65 歳以上の高齢者の約 5 人に 1 人に達することが見込まれています。今や認知症は誰もが関わる可能性のある身近な病気です。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加が予想されます。そこで、認知症の人を単にお世話を受ける側と考えるのではなく、認知症の人も地域の中で主体的に、ともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要です。認知症高齢者等にやさしい地域の実現には、国を挙げた取組みが必要ですが、関係機関との連携はもとより、行政だけでなく地域住民や、様々な関係機関がそれぞれの役割を果たしていくことが求められています。

そこで、高齢者福祉サービス等を提供している任運社もできる役割を果たしたいと考えます。

具体的には 1.本人、家族、地域住民が気軽に相談でき、2.地域での認知症についての受診もでき、早期に診療が受けられ同時に介護情報も知ることができる。3.家族や地域住民の認知症の症状の理解が進み、適切な「関わり」が行われる。4.独り暮らしや高齢者世帯に定期的に「見守り」「話し相手」がいる。等が地域で整っていることが必要です。

2)新センターの概要

現在、任運社敷地内で展開している任運社総合相談支援センター(以下センターとする)を市民病院前に移設し、新センター内に地域福祉推進室(以下推進室とする)を置きます。従来のセンター事業(任運荘介護支援事業、任運荘訪問介護事業所、騰々舎相談支援事業所)とともにオレンジカフェ(認知症カフェ)事業をはじめ地域が必要とする相談事業を展開します。

建設地は豊後大野市緒方町馬場東仙寺 320 番地で敷地面積は 1264.96 ㎡です。新センターは木造、平屋建て、建築面積は 180 ㎡(54 坪)です。建築は 4 月から開始し、7 月中での完成、8 月当初から新センターでの業務開始を予定しています。

3)認知症カフェ(オレンジカフェ)の取組予定

8 月からの事業開始を予定し、開所当初は住民への周知と啓発を重点的に実施し、協力ボランティアの育成と協力を得て、週 2 回開催(2 時間程度／回)を予定します。当初は利用者への相談事業とし、認知症の人が楽しめる場所、家族にとってわかり合える人と出会う場所となるようにします。また、専門職としては人としてふれあえる場所(認知症の人の体調の把握が可能)、地域住民のつながりの再構築の場所(住民同士としての交流の場や、認知症に対する理解を深める場)となるようにします。

さらに、事業実施に当たっては豊後大野市の高齢者福祉課をはじめとする行政機関や病院、民生委員、ボランティア団体、福祉関係団体との連携と協力をいただきながら実施、推進に当たります。

なお、オレンジカフェの名称については開所までに決定します。だれでも気軽に様々な福祉サービスの相談が出来るとともに、地域のみなさんが交流を深め、お互いが協力しながら地域のために支援できる場所にする予定です。ご期待ください。

任運社地域福祉推進室長　橋本祐輔

オレンジカフェどんなところ？

認知症の人のことを第一に考えてつくられた集いの場所

・楽しむ　　お茶やお菓子たべながら

・学ぶ　　認知症についてみんなで

・相談する　　今後のお世話をどうしたらよいか

オレンジカフェはこんな人たちのための場所

・もの忘れは自覚しているが、それ以外は普通だと思っているので、デイサービスなどにはいきたくない。

・1人で外出するのがおっくうで、めったに家から出ない生活を送っている。

・夫婦二人で暮らしのなか、妻(夫)はもの忘れがひどくいつもイライラしている。

・近ごろ認知症ではないかと心配で、遠方に住んでいる子どもたちに相談したいが、忙しそうなので遠慮している。

・認知症初期と診断されて以来、人とつき合うことがほとんどなくなった。

出典(「認知症カフェの始め方・続け方」 浅岡雅子著)

～ 誕 生 者 紹 介 ～【生涯担当寮母との記念撮影】

3月

お誕生日おめでとうございます！
私たちが心の支えになります！

髙山つよしさん
３月１日（８９歳）
生涯担当：佐藤里香

工藤幸子さん
３月１日（９７歳）
生涯担当：工藤浩子

田近スズヱさん
３月８日（９８歳）
生涯担当：森　旭

渡部長義さん
３月１６日（９１歳）
生涯担当：佐藤美和

眞部タマヱさん
３月２０日（９２歳）
生涯担当：高倉智恵

柿原幸夫さん
３月２０日（９４歳）
生涯担当：伊藤菜保美

首藤文彦さん
３月２５日（７１歳）
生涯担当：羽田野弘美

佐藤眞子さん
３月２６日（９０歳）
生涯担当：森　旭

4月

※４月末日の年齢です

佐藤チスさん　４月２９日（９４歳）
生涯担当：高山悦子

深田アイ子さん
４月２６日（８２歳）
生涯担当：酒井美悠

小野春子さん
４月２８日（９０歳）
生涯担当：高山悦子

つぶやき

柿原 幸夫

食事後に
「今日はどうもありがとう～」
と大きな声で言ってくれる。

佐藤 亀代（一 七歳）

「今年はどんな年にしたいですか？」
と聞くと
「なんも、考えん事！」
ときっぱり。

五嶋

朝食のお手伝いをしていると
「あ～」というので「どうしましたか？」と聞くと
「歯がおみぃ～」と困っていた。

後藤 穴見富貴子

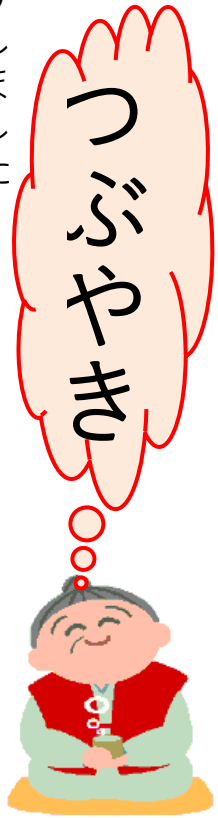
後藤が
「ポッポッポ はとポッポ～
豆がほしいかそらやるぞ～」
と歌っている。
それを聞いてた**穴見富貴子**
「そら～おいしかろうなぁ～」
と二人で顔を見合わせていた。

引田 民子

「どんな、年にしたいですか？」と聞くと
「なっちみらんと、わからんなあ～」
と考えていた。

衞藤 文子

「なかなか、死なんから、百歳になるまで頑張ります！」
とガッツポーズ！



高山

「はよ、じいさん（亡くなったご主人）が迎えに来んかなぁ～」
と言うので、
「長生きして沢山お土産を持って行きましょうよ」
と言うと、
「もう、両手一杯になってしもうちょるよ」
と笑う。

お花見会

4月5日(木)午前10時よりお花見会が行われました。今回は、緒方町芸能文化連盟の『萬謡会』の皆様がボランティアで来荘され、三味線やハーモニカを演奏して利用者を楽しませてくれました。

10曲披露してくれましたが、知っている曲が演奏されると、皆さん大きな声で歌われ、「とても楽しい。観れて良かった」と利用者は大喜びでした。

アンコールでは、『九州炭坑節』の演奏に合わせ、寮母達が利用者の周りを踊り歩きました。今年は桜が散るのが早く、お花見会では桜を見ることができませんでしたが、任運荘のホールには『萬謡会』の皆様と寮母によって大輪の花を咲かせる事ができ、利用者にとって、とても楽しいお花見会になりました。

（担当 馬場 由希子）

『萬謡会』による三味線演奏

演奏に合わせて皆さん歌ってました

第43回 社会福祉法人 任運社 五月祭

障がい者支援施設 騰々舎　開設４０周年記念

開催日 ： 5月13日(日) 【雨天決行です】

会 場 ： デイサービスセンターなごみ塾 ホール・中庭

【イベント：スケジュール】

- **作品展示：任運荘談話室・騰々舎ホール・なごみ塾食堂**
- **式典（表彰）：10時00分～10時30分**
- **記 念 講 演 ：10時30分～11時30分**
  『 命を愛する 』 前熊本県知事　潮谷 義子氏
- **模 擬 店 ： 11時30分～14時00分**
  カレー、うどん、焼きそば、レタス巻き、餃子、焼き鳥
  いなり寿司、フライドポテト、かき氷、綿菓子 など

※駐車場完備しています（係がご案内いたしますので、指示に従って駐車してください）

一月末のインフルエンザ流行時には、利用者の皆様、ご家族の皆様にご心配とご迷惑をおかけしました。面会規制などご協力頂き、心から感謝申し上げます。利用者の皆様で重篤になられる方もなく、感染の時期を無事終息する事ができました。今後は今回の教訓を生かし、安心して生活して頂ける環境作りに努力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム任運荘
施設長　吉野　明子

★広報委員のひとり言

昨年度は『おとずれ』を四回の発行目標にしておりましたが、三回しか発行できませんでした。『おとずれ』の表紙にも書いていますが、「ホームと家族を結ぶ」を肝に銘じて、今年度は四回以上の発行に努めます。季刊誌として皆様にお届け出来るように頑張ります！

㊫